形成外科

1. スタッフ (平成29年4月1日現在)

科 長(教 授) 吉村浩太郎 副科長・外来医長(講師)

去川 俊二

病棟医長(助 教)上野紫穂

医 員(講 師) 須永 中

医 員(臨床助教) 池 大官

医 員(臨床助教) 森 正徳

医 員(臨床助教) 八木 千裕

医 員(特任教授) 宇田 宏一

医 員(客員教授) 菅原 康志

医 員(非常勤講師) 木下 幹雄

医 員(非常勤講師) 加持 秀明

シニアレジデント 2名

2. 診療科の特徴

形成外科は、主に身体の造形に基づく問題を解決することによって、対象組織の機能や患者のQOLを改善することを目指す診療科である。当院における特徴は以下である。

- 1) 幼少時から治療を要する唇顎口蓋裂などの頭蓋顎顔 面領域の先天異常・形態異常は、患者が成人になっ ても顔面骨骨切り術などの外科治療を要することが 多い。小児形成外科との密な連携で全成長期におけ る総合的な治療が可能である。
- 2) ケロイド・肥厚性瘢痕専門外来を開設し、保存治療 から手術治療、テーピング治療、術後放射線治療な ど、症状に応じた総合的アプローチで治療を行って いる。
- 3) 乳癌の増加に伴い、乳房再建症例が増加している。 自家遊離組織移植を含む乳房再建関連手術は、2016 年は68症例であった。遊離自家組織移植、有茎自 家組織移植、脂肪移植、人工乳房による再建など多 くの選択肢から、複合治療も含めて、患者の症状や 希望に応じた治療を行っている。遊離皮弁など大き な組織移植を行った症例では、採取部の術後機能評 価も行っている。
- 4) 舌癌、咽頭癌や喉頭癌など頭頚部癌の切除後の再建 (頭頸部再建) の症例も年々増加しており、2016年 は45症例であった。頭頸部再建においては患者の術 後QOLを重視し、客観的な術後機能評価だけでな く、患者アンケートによるQOL評価も取り入れて いる。上下顎再建後には補綴専門医との連携でイン プラントや義歯の装着までの治療を積極的に行って いる。舌再建後には欠損に応じた術後機能の目標を

提示して術前からボディイメージの把握に役立てている。また、喉頭摘出後の音声再建も積極的に行っており、リハビリテーションのためには患者同士の情報交換が重要と考え、年に4回程度の患者会も開催している。

• 施設認定

日本形成外科学会認定専門医制度指定認定施設

• 専門医

日本形成外科学会専門医 吉村浩太郎 宇田 宏一 去川 俊二 須永 中 加持 秀明 菅原 康志 日本皮膚腫瘍外科学会専門医 吉村浩太郎 日本創傷外科学会専門医 吉村浩太郎 吉村浩太郎 日本美容外科学会教育専門医 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医 宇田 宏一 菅原 康志

• 評議員

日本形成外科学会評議員

日本オンコプラスティックサージャリー学会評議員 吉村浩太郎 宇田 宏一 日本再生医療学会評議員 吉村浩太郎 日本抗加齢医学会評議員 吉村浩太郎 日本創傷外科学会評議員 吉村浩太郎 日本美容外科学会理事・評議員 吉村浩太郎

宇田 宏一 菅原 康志

吉村浩太郎

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1)新来患者数・再来患者数・紹介率

日本頭蓋顎顔面外科学会評議員

新来患者数 387人 再来患者数 4,581人 紹介率 89.8%

2)入院患者数

病 名	患者数
外傷	19
先天異常	95
腫瘍	131

瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	0
7007-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00	9
難治性潰瘍	4
炎症・変性疾患	8
その他	2
合 計	268

3)疾患別手術件数

/ N=	- 15 M M
術 式	手術件数
外傷	19
唇裂・口蓋裂	29
頭蓋・顎・顔面の先天異常	50
四肢の先天異常	15
その他の先天異常	1
良性腫瘍	9
悪性腫瘍	1
腫瘍の続発症	3
腫瘍切除後の再建(一次再建)	61
腫瘍切除後の再建(二次再建)	57
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	9
難治性潰瘍	4
炎症•変性疾患	8
美容(手術)	2
その他	2
合 計	270

4) 外来手術

病 名	手術件数
外傷	16
先天異常	14
腫瘍	88
瘢痕・ケロイド	34
難治性潰瘍	10
炎症·変性疾患	28
美容(手術)	2
その他	35
合 計	227

5) その他の治療・検査なし

6) 術後死亡症例 なし

7) カンファランス症例 全手術症例

8) キャンサーボードなし随時頭頸癌キャンサーボードに参加

4. 2017年の目標・事業計画等

1)新来患者数、外来手術数の増加

- 2) ケロイド・瘢痕、眼瞼下垂の受け入れ枠数の増加
- 3) 再建手術での多職種連携による術後機能向上
- 4) 褥瘡やフットケアなど難治性潰瘍患者の受け入れ
- 5) 地域の連携病院(新小山市民病院、芳賀赤十字病院、 新上三川病院など) との連携促進